

暮らしの知識をお届けする薬局の広報紙「あけぼの」11・12月号



あけぼの

vol.
148

あおもり健康企画

INDEX P2.副鼻腔炎ってどんな病気? P3.薬害根絶デー/高校生薬剤師一日体験会



中央店



大野店



八戸店



妙見店

2004年11月9日から続けてきた9条・25条早朝街宣が今年の11月で、まる18年になります。雨の日も雪の日も欠かすことなく、「憲法9条を守り、25条で生きる!」を地域の皆様に訴え続けてきました。

ロシアのウクライナ侵攻を引き合いにした憲法改悪や生活保障の切り下げ等、平和な生活を脅かす政策が次々ととられようとしています。私たちはこれらに断固反対し、これからも9日・25日の早朝街宣を続けていきます。

10月から始まった一部対象者の75歳以上の方の医療費2割化についても中止の署名を集める等、反対の姿勢を貫いてきました。医療費にお困りの方は、あけぼの薬局にぜひご相談ください。

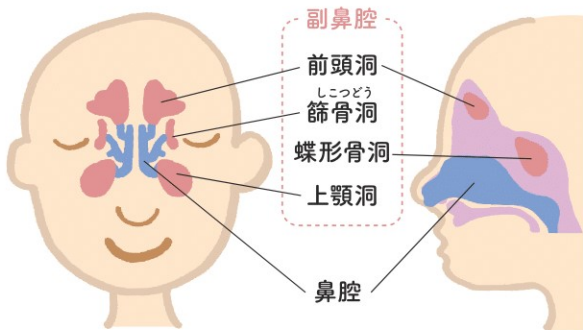
(本部事務/玉熊律郎)

憲法9条を守り、
25条で生きる!

2022.11.9

早朝街宣

18周年



長引く鼻の不通

副鼻腔炎ってどんな病気？

ふくびくうえん

”



風邪をひいたあとに、鼻水・鼻づまりがなかなか治らず、鼻水がだんだん濁ってドロドロになってきたという経験はありませんか？このような症状がみられたら「副鼻腔炎」かもしれません。副鼻腔とは、鼻腔（鼻の中の空

間）の周囲に存在する空洞で左右に4つずつ合計8つあり、鼻腔とつながっています。副鼻腔炎は、主に風邪やインフルエンザなどのウイルスや細菌が鼻腔に感染し、炎症が副鼻腔にまで広がる病気です。

症状は？

ドロドロした鼻水、鼻づまり、後鼻漏（鼻水がのどに落ちる）、頭痛、顔面痛、嗅覚障害などです。炎症が治まらず長期化すると、副鼻腔内の膿を外に出す粘膜の働きが弱くなり、また粘膜が腫れあがることで鼻腔との交通路が遮断されて、膿がどんどん副鼻腔内にたまってしまいま

す。副鼻腔炎の俗称である「蓄膿症（ちくのうしょう）」は、このような状態を指した言葉です。症状が慢性化すると、腫れた粘膜が鼻腔にまで広がって「鼻茸（はなたけ）」というポリープができ、鼻づまりや嗅覚障害が悪化します。

兆治療法は？

まずは薬物療法を行います。急性期には抗菌薬や抗炎症薬、去痰薬（痰や膿の排出、分解）の内服薬が一般的です。慢性化するとステロイド薬や点鼻薬などが処方されることがあります。薬物療法以外の処置としては、鼻の中を洗って膿を出し、できるだ

け膿を残さないようにする「鼻洗浄」という方法もあります。それでも症状が改善しない場合は、手術が検討されることもあります。

予防・対策は？

副鼻腔炎の原因の多くが風邪などの感染症なので、普段から手洗い・うがいやバランスのよい食事など規則正しい生活を心がけましょう。副鼻腔炎は慢性化すると睡眠を妨げたり、集中力が落ちたりと、日常生活の質の低下も引き起こしてしまいます。風邪が治りきらずドロドロする鼻水などの症状が長引いているときは、たかが鼻水と軽く考えず、早めに耳鼻咽喉科を受診することが大切です。

薬害根絶デー

薬害根絶デーの集会にWEB
参加しました。

薬害とは、医薬品の有害性に関する情報を加害者側が軽視・無視・隠蔽した結果、社会的に引き起こされる人災的な健康被害です。日本ではサリドマイド・モムン・薬害HIV感染・ヤコブ病など、多くの薬害が繰り返され多くの方が重大な健康被害を受けてきました。今年の集会では薬害被害者の方からのお話があり、現在でもなお薬害に苦しんでいること、今後薬害を絶対に起こしてほしくないという強い思いをお聞

きました。

「ワクチンの副反応評価+薬機法改正」についてのプログラムでは、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの話もあり、この間行われた緊急承認制度(緊急時における迅速な医薬品の使用を目的に幾つかの条件で承認を取得できるもの)を危険視する声もありました。

1996年に厚生労働省前に「薬害根絶の碑」が建立されています。これは、「私たちに必要なのは国に慰霊してもらうことではなく、二度と薬害を起こさないことを誓ってもらうことである。」との遺族被害者の強い願いがこもっています。

今回私は薬害の歴史を学び、今後新たな薬害を生まないように薬剤師として監視の目を持ち続けることを胸に刻みました。

(中央店 薬剤師/山上 哲司)

高校生薬剤師体験会 online

9月10日、薬剤師を目指す高校生を対象に「高校生一日薬剤師体験会」がzoomで開催されました。スライドを用いて、病院や薬局で働く薬剤師の仕事内容の紹介から始まり、薬剤師1人と学生数人の小グループに分かれディスカッション。チャットからも質問が寄せられ活発なディスカッションになりました。続いて現在の薬科大学の状況、奨学金の説明等、約2時間にわたって行われました。集中力を切らさず最後まで



で聴き入ってくれた真剣な学生の姿を見て、薬剤師をより身近に感じていただく機会になったのではないかと思います。

(妙見店 薬剤師/平井 佳菜)

